

第一部拡大役員会（第24期・第2回）議事要旨

I 日時 平成30年2月22日 17:00～19:00

II 会場 日本学術会議5-A(2) 会議室

III 出欠

出席者：松浦純（言語・文学）、小田部胤久（哲学）、亀田達也（心理学・教育学）、遠藤薫（社会学）、久留島典子（史学）、石川義孝（地域研究）、松本恒雄（法学）、古城佳子（政治学）、溝端佐登史（経済学）、西尾チヅル（経営学）

役員：佐藤岩夫、藤原聖子、橋本伸也、町村敬志

オブザーバー：三成美保（副会長）

事務局：石部康子、砂山文香

（議事要旨案作成：橋本伸也）

議題

- （1）幹事会等の動きについて
- （2）第24期の第一部活動方針について
- （3）第24期の査読体制について
- （4）4月総会時の部会について
- （5）夏季部会について
- （6）その他

議事に先立ち、委員長代理の出席者も含まれることから全員が自己紹介を行った。

続いて、配布資料に基づき前回議事要旨を承認した。

議事

- （1）幹事会等の動きについて

資料（第一部拡大役員会（第24期第2回）報告・審議事項）に基づき、佐藤部長が幹事会等の報告を行った。

○幹事会

「幹事会」については、会長の関心として外に開かれた学術会議としてメディアへの発信力を強めること、日々生ずる課題にたいする学術会議としての対応の迅速化が強調されていることが紹介された。

幹事会における「部を横断した課題」の議論の状況が報告されるとともに、今期は、各部からのボトムアップの形での提案が可能であるので、必要に応じて各分野別委員会においても検討・提案することが依頼された。

幹事会決定「地方学術会議の開催について」について以下の質疑応答があった。「地方」「地方大学」という表現について。

質問：ここでいう「地方」とは何か。

回答：本日の幹事会で、東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）以外を指すことが確認された。

質問：「地方大学」という表現について、この語によってカテゴライズされることの当事者にとっての意味について慎重に考えるべきではないか。

意見：「地方大学」にかえて「各地域の大学」となどとすべきではないか。

回答：既にこの文言で幹事会決定がなされているところであるが、今後の対応策を検討する。

○科学者委員会関係

科学者委員会および附置5分科会の活動について、佐藤部長のほか、三成副会長（科学者委員会委員長）から、資料記載事項以外に追加的な紹介・説明があった。

男女共同参画分科会については、昨年のジェンダーサミット10をフォローアップするために6月にシンポジウムを開催予定であることが紹介された。

学協会連携分科会については、学協会の法人化が進んだ後の課題の整理および協力学術研究団体指定要件、特に「研究者」の定義と範囲についての見直しが課題とされていることが紹介された。

学協会連携について以下の質疑応答があった。

質問：学術会議では学協会連携や連合体の組織化が一方で進められているが、それと指定要件見直しとはどういう関係にあるのか。2つの課題があるということか、関連しているのか。

回答：現状の把握に努めており、特に連合体のニーズも把握しながら整理していきたい。

○科学と社会委員会関係

科学と社会委員会および附置5分科会の活動について、藤原副部長（科学と社会委員会委員）から、資料記載事項以外に追加的な紹介・説明があった。

科学と社会委員会全体では、地方学術会議の具体化およびSDGsに対して学術会議がどのように関わりうるか・関わるべきかを主な検討課題としている。

○国際委員会関係

町村幹事（国際委員会委員）から、現在2020年度の日本学術会議主催・共催国際会議の選定に向けた作業を行っているとの紹介があった。

（2）第24期の第一部活動方針について

佐藤部長から、第24期の第一部の当面の活動の重点を、第23期の提言「学術の総合的發展をめざして—人文・社会科学からの提言—」の具体化・実現に置くことが改めて確認された。

関連して、藤原副部長より、同提言の英語版が3月に公開できる見通しとなったことが報告された。

（3）第24期の査読体制について

担当の藤原副部長から、以下の説明と提案がなされた。

別紙資料「提言等の作成・査読に関するアンケート 回答のまとめ」にもとづき、第一回拡大役員会後に実施したアンケートに対する各分野別委員会からの回答の紹介があった。

別紙資料「査読者用 査読の際の留意事項」、「第一部関連分野別委員会および分科会が作成する提言等の取扱いについて（2017年12月22日第一部拡大役員会了承）」「分科会委員長用 査読の手順」「分野別委員会委員長用 査読の手順」に基づき、査読体制の見直しとその実際の進め方や関連文書の内容の整理・改変についての説明および質疑応答が行われた。追加資料として、幹事会による査読に際して各部共通で使用されている「提言等の提出チェックシート」が配布された。

質疑・議論は提言作成時の形式面での要件とその遵守にめぐって行われた。主たる論点は以下の通り

○「提言」の最後の章は「提言」と題して、叙述形式も提言的なものにすることが求められているにもかかわらず、そのことが周知されていない。是正するために、査読者用留意事項、チェックシート、提言等作成用フォームの記述内容の一本化を図る必要がある。それに即した各文書の内容の見直しを行う。

○各分科会委員長には、「提言」等の作成に先だって事務局に連絡を求め、フォームやチェックシートその他の配布を受けるとともに、適切な形式で作成できるよう事務局に説明を求めるよう勧奨する。

○事務局より、部による査読の後に幹事会による査読に回付されるが、幹事会による決定までには相当の時間（1ヶ月あるいはそれ以上）を要することについて、各分科会委員長に周知してもらいたいとの発言があり、確認された。

（4）4月総会時の部会について

佐藤部長から、4月総会時の第一部部会は4月3日（火）15:00-16:30、および4日（水）10:00-12:00に開催予定であること、および審議事項の案が報告された。

（5）夏季部会について

担当の町村幹事から、現在7月29日（日）、30日（月）に開催することが内定しているとの報告があった。

（6）その他

佐藤部長から、2月9日付で学術会議HPに、高大連携歴史教育研究会による「高等学校教科書および大学入試における歴史系用語精選の提案（第一次）」の作成と日本学術会議との関係に関する説明記事が掲載されたことにつき紹介と説明があった。

藤原副部長から、本日の幹事会において学術会議の分科会等も含めて議事録の迅速な作成と公表に向けた検討が進んでいることが報告され、各分科会委員長にもその旨周知と注意喚起するようとの報告があった。このことに関連し、議事録の公開請求との関連で留意すべき事項の有無・論点等についての検討を、法学委員会に依頼した。

【付記】次回日程は追って調整する。

以上